



TOO MUCH OF A GOOD THING

新刊『NEXUS』で話題!

ユヴァル・ノア・ハラリ
「ほとんどの情報はゴミ」

『サピエンス全史』などで知られるベストセラー作家ユヴァル・ノア・ハラリ氏の新著『NEXUS』が話題を呼んでいる。「ほとんどの情報はゴミだ」と断言する同氏は、現代の情報技術をもたらす逆説、すなわち、高度な技術を持ちながらも自己破壊的な道を進む人類の現状を分析し、その根本原因を人間の本質ではなく、情報そのものの性質に見いだしている。



インタビューア

ウォルター・アイザックソン

デュレーン大学教授。CNNのCEOやタイム誌の編集長、アスペン研究所のCEOを経て、現在はフェロー職を務める。著名人の伝記作家としても活躍。スティーブ・ジョブズ、アルバート・アインシュタイン、ベンジャミン・フランクリン、レオナルド・ダヴィンチなどを取り上げる。1952年、ニューオーリンズ生まれ。

ゲスト

ユヴァル・ノア・ハラリ

イスラエルの歴史学者。ヘブライ大学で学んだ後、オックスフォード大学で中世史、軍事史の博士号を取得。現在はヘブライ大学で教壇に立つ。2011年、7万年という広大なスパンで人類史を捉えなおす『サビエンス全史 文明の構造と人類の幸福』をヘブライ語で執筆。14年には英語版が出版され、世界的ベストセラーに。



Listening Quiz

71 「問題は人間性ではなく、情報にある」



Walter Isaacson Your bestselling book *Sapiens** was about how we—meaning our species, *Homo sapiens*—became dominant, and it’s mainly about how we were able to form networks of cooperation. Your new book, *Nexus**, is about communications and how they help to form those networks, but it’s rather pessimistic. I think you say “the way these networks are built predisposes us to use that power unwisely.” Tell me about that theme.



Yuval Noah Harari Well, the basic question of the book, of *Nexus*, is if humans are so smart, why are we so stupid? We’ve named our species *Homo sapiens*, which means “wise humans,” and we know a lot more than any other animal on the planet. We’ve reached the moon. We can split the atom. We can decode and write DNA. And nevertheless, we are on the verge of destroying ourself[es] and much of the ecosystem. So, this is the paradox at the center of the book.

And, of course, humans have been concerned with this paradox throughout history. And many mythologies and theologies blame human nature—that there is something wrong with human nature which causes us to be so self-destructive. The book *Nexus* gives a different answer: The problem is not with our nature; it’s with our information. If you give good people bad information, they make bad decisions; they make self-destructive decisions.

And we are now seeing it all around us. You know, we have

too much of a good thing:
《タイトル》(美点・完全さなどの度が強すぎて) 結局うんざりさせるもの、ありがた迷惑なもの

species:
(生物の)種

dominant:
支配的な、優勢な

form:
～を形成する

pessimistic:
悲観的な

predispose...to do:
…に～しがちな傾向を与える、前もって～するよう…を仕向ける

unwisely:
愚かに、無分別に

split:
～を分割する、分裂させる

atom:
原子

decode:
～を解読する

nevertheless:
それにもかかわらず

be on the verge of doing:
今にも～する瀬戸際にいる、～する寸前である

ecosystem:
生態系

paradox:
パラドックス、逆説

be concerned with:
～に関心がある

mythology:
神話体系

theology:
神学、神学体系、神学理論

blame:
～のせいにする、責任にする

human nature:
人間性、人間性の本質

self-destructive:
自己破壊的な



※お聞き苦しい箇所がありますが、放送時のものです。ご了承ください。

ウォルター・アイザックソン あなたのベストセラー『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』では、私たちホモ・サピエンスという種がどのように優勢となったのか、そして主に、私たちが協力のネットワークをどのようにして築くことができたのかについて書かれています。あなたの新著『NEXUS』は、コミュニケーションについて、そしてそれがどのようにそれらのネットワーク構築に役立つのかについて焦点を当てていますが、その内容はかなり悲観的です。確か、「こうした（協力の）ネットワーク構築の方法こそが、それによって得られる力を愚かに使うよう人間を仕向けている」とのことですが、そのテーマについて教えてください。

ユヴァル・ノア・ハラリ そうですね、この本『NEXUS』のベースとなる問いは、「人間がこれほど賢いならば、なぜこんなにも愚かなのか」という疑問です。私たちは自分たちを「ホモ・サピエンス」と名付けました。「賢いヒト」という意味で、確かに私たちは地球上のどんな動物よりも多くの知識を有しています。月にも到達しました。原子核分裂も実現しました。DNAを解読し、書くこともできます。それなのに、私たちは今にも、自分たちと生態系のほとんどを破壊しようとしています。このパラドックスこそがこの本のテーマです。

もちろん、人間は歴史を通して、ずっとこの矛盾に関心を向けてきました。そして多くの神話や宗教は、人間の本性のせいだとしています——人間性の本質に何か問題があって、これほど自己破滅的な行動を取らせるのだと。（しかし）『NEXUS』というこの本は別の答えを出しています。つまり、問題は人間性にあるのではなく、私たちが扱う情報にあるのだ、と。善良な人々に誤った情報を与えれば、彼らは間違った決断を下します。自己破滅的な決断を下してしまうのです。

そして今、そうしたことがあちこちで起きています。私たちは史上最も

■ Sapiens

ハラリ氏の『サピエンス全史』（原題：Sapiens: A Brief History of Humankind）は、人類（ホモ・サピエンス）の誕生から現代までの歴史を、生物学、人類学、歴史学などの多角的な視点から考察したベストセラー本。アイザックソンとハラリ氏はsapiensを[séipianz]と発音しており、これが一般的な英語の発音である。

■ Nexus

nexusという語はa complicated series of connections between different things（さまざまなものが複雑に絡み合ったつながり）という意味（Oxford Advanced Learner's Dictionaryより）。

ハラリ氏のNexus: A Brief History of Information Networks from the Stone Age to AI（河出書房新社から邦訳『NEXUS 情報の人類史：人間のネットワーク』）が出ているは、情報とそれが人類の歴史において果たしてきた役割について深く掘り下げる本。情報がどのように人類社会を形成し、時には破壊してきたかを探求し、現代の情報社会における課題と未来への展望を描く。